

上杉文華館 目録
2023年2月28日（火）～3月26日（日）
関東管領上杉氏⑫～北条氏との抗争

資料名	頁数	法量 (cm)	時代	作者	所蔵
複製 上杉本 洛中洛外図屏風 <small>うえすぎほん らくちゅうらくがいず びょうぶ</small>	六曲一双	各160.4×365.2	原本 永禄8年（1565）	狩野永徳	上杉博物館
国宝 上杉家文書 北条氏綱書状 <small>ほうじょうじつなしじょう きたじょうしつなしじょう</small>	一通	32.3×35.5	（大永4年・1524）11月23日		上杉博物館 文79
国宝 上杉家文書 武田惣鑑書状 <small>たけだじょうかんしじょう ぶだそうかんしじょう</small>	一通	17.9×46.5	（大永5年・1525）2月26日		上杉博物館 文94
国宝 上杉家文書 北条氏綱書状 <small>ほうじょうじつなしじょう きたじょうしつなしじょう</small>	一通	29.1×39.7	（大永5年・1525）3月10日		上杉博物館 文80
国宝 上杉家文書 八木義宣書状 <small>やぎよしのがしじょう やまぎよしのがしじょう</small>	一通	18.1×61.5	（大永5年・1525）3月23日		上杉博物館 文34

2022年度の上杉文華館は「関東管領上杉氏」をテーマに、国宝「上杉家文書」などを展示します。

長尾景虎（上杉謙信）は、永禄4年（1561）閏3月、上杉憲政から山内上杉氏の名跡と関東管領職を譲り受けました。ここに、後に米沢藩主となる上杉氏が成立しました。この関東管領の地位を名分として、謙信は関東に出兵し、同じく関東管領を称した北条氏と抗争を繰り広げました。また、江戸時代には関東管領に上杉家の歴史的アイデンティティを見出していました。この謙信が継いだ上杉氏の歴史を国宝「上杉家文書」からみていきます。

室町幕府は、東国支配のために鎌倉府という地方機関を設置しました。これは、足利尊氏の息子義詮・基氏、そして基氏の子孫に継承された鎌倉公方をトップとして、幕府とほぼ同様の組織を編成し、管下の武士に対して強力な支配を行っていました。その鎌倉府のナンバー2の地位にあって、鎌倉公方を補佐し、政務を統轄する立場にあったのが関東管領でした。初期は上杉氏以外の諸氏も含めた人事がなされましたが、最終的に山内上杉氏が継承、家職と位置付けられていきました。15世紀半ばに鎌倉公方と関東管領の対立によって鎌倉府が崩壊した後も、関東支配の重要な地位にあり続けました。

第12回目は、「北条氏との抗争」をテーマとして関連文書を紹介します。小田原北条氏は、初代伊勢宗瑞（北条早雲）が伊豆（静岡県）・相模（神奈川県）を掌握し、2代北条氏綱が武蔵へ勢力の拡大を図ります。この展開は山内上杉氏、それと並立した扇谷上杉氏や古河公方、その他関東の諸勢力を巻き込んで展開しました。大永4年（1524）の氏綱の侵攻に扇谷上杉氏は山内上杉氏とともに対抗していきます。そして、北条氏、両上杉氏それぞれが越後の長尾為景（上杉謙信父）に援助を期待していました。それぞれの陣営から為景に送られた書状から、両者の攻防は一進一退であったとみることができます。関東の戦局に越後の軍事力が期待される構図は15世紀半ば以来、戦国時代の関東を規定し続けました。

その後、北条氏の圧迫に耐えきれなくなった関東管領山内上杉憲政は、謙信を頼って越後に移ってきます。それを受け入れた謙信は、憲政の要請を受けて関東に出兵し、さらには山内上杉氏の名跡と関東管領職を継承します。ここに米沢藩上杉氏の歴史が動き始めます。

「国宝上杉本洛中洛外図屏風」は、現状に基づいて制作した2000年制作の複製Bを展示します。